

いきいき 行田人

Bリーグランプリで

郷土食に誇りと情熱を

松井 秀二郎さん（55歳・持田）

今月は、そのネーミングから抜群の話題性を持つ行田の郷土食「ゼリーフライ」を、多くの人に知ってもらおうと活動する、行田ゼリーフライ研究会代表の松井秀二郎さんを紹介します。

「ゼリーフライの思い出？特になんてですよ。家で食べたくらいかな」松井さんにとって、ゼリーフライは昔から特別な存在というわけではなかったようです。平成19年6月、B級ご当地グルメでまちおこしをしようと全国のボランティア団体が始めた「Bリーグランプリ」の第2回富士宮大会に行田ゼリーフライ研究会を設立した友人と共に初出展。そこで他の出展団体の仲間から、ゼリーフライの由来や名前のインパクト、そしてそのおいしさを称賛され「市外に出ると、ほとんど名前も知られていないけれど、行田で100年近くも受け継がれてきた食文化をもっと誇りに思ってもらいたいんだ」と全国にゼリーフライを知って



もらいたい気持ちに火がついたそうです。

大会出場以降、同会では会独自のキャラクターを考案したり、ステッカーやTシャツなどを作製したりと活動を本格化。また、市によるB級グルメ大会の開催や他市他県でのイベントに出展するなどしたことで、ゼリーフライの名は広く知られるようになっていきました。昨年のBリーグランプリ厚木大会まで4年連続で出場し、多くの出展者との交流を果たしてきた松井さんは、「大会出展のたびに各地の新たなグルメの存在に驚かされますが、同時にゼリーフライが持つB級ご当地グルメとしての実力をあらためて実感します」大会出展の目標はあくまでゼリーフライの認知度アップ。ほかのグルメにライバル意識を持つことなく、まちの活性化を願う者同士が集える大会への参加を楽しんでいます。

Bリーグランプリの関東版である関東Bリーグランプリが9月10日・11日に行田で開催されること決定し、同大会の副実施本部長も務める松井さん。「この大会は2日間で15万人もの来場者を見込んでいます。お越しいただいた方々に大会と行田のまちを堪能してもらえよう、市民全体でおもてなしができたら最高ですね」今大会を成功させ、いずれ全国大会を誘致したいと、熱々なゼリーフライと同じくらい熱い情熱を持って、郷土食のPRを続けています。

私の作品

俳句

城西 八木橋近蔵

湯宿にて膳に並びし春の使者

桜町 吉岡 守子

白水仙甘くにおえる宵の庭

忍 丸山 連子

薄氷をふんづけてゆく反抗期

犬塚 細井喜美江

涙あふる園児の唱歌やひな祭

前谷 石井マサ子

自己流のストレッチして春恋し

前谷 町田 貞子

近頃は雪と雷同居して

城南 町田 達男

やわらかな日ざしを浴びて寒ごくら

持田 伊藤 洋子

うべいすや憂きこと忘る至福の音

城西 西田吉之助

閉ざす庭虫の這い出す頃となり

城南 橋本千枝子

道祖神よりそつ袖に春のちり

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へご応募ください。

城西 新井喜栄子

福寿草雪の帽子をはねのけて

荒木 高沢よね子

春厨弁当作る母の声

荒木 藤田 栄之

忘却も良薬とせん月おぼろ

持田 丸山 麟一

行く鳥に来る鳥もあり春つらら

城南 千代田富子

ろっばいに顔よせあつて老夫婦

(木島 斗川 監修)

『書』

立原道造「薊の花のすきな子」言より

大塚 あき(野)

